

はじめに

筆者は子どものころ、教師になりたかった。ところが、高校3年生のときに考えが突然変わった。それは、内科医で人生の師匠でもあった女房の父親が、「小峰君は医者を目指せ」と指導してくれたのだ。残念ながら、医学部は不合格であったが歯学部合格し、歯科医師となった。そして、もともと研究が好きで、食事が身体に与える影響について研究し、学位論文とした。その結果、筆者の生涯は食事にかかわる人生になったのである。

本書で紹介する「ドックベスト療法」は、あくまでも対症療法にすぎない。いくらドックベスト療法でカリエスが治癒しても、カリエスの原因は解決していないので、再発や新たなカリエスが発症してしまう。やはり、原因療法を併用しなければならないのである。日本の医療はほとんどが対症療法なので、理解しにくいかもしれない。本書では、ドックベスト療法とカリエスや歯周病の原因療法も紹介させていただく。とくに、若い歯科医師の方々にご理解いただき、新しい歯科診療として日常臨床に取り入れていただきたい。

そして、カリエスや歯周病のない社会を築いてほしい。その結果、“歯科医師が失業してしまうのでは”と思われるかもしれないが、実は歯科医師として素晴らしい職務があることを、本書で知っていただきたいのである。

2020年4月

小峰一雄